



玉一っ子通信



令和5年3月17日

No. 24

文責：校長 酒井

～失敗やトラブルを学びに変える教育～

<☆ともだち大好き！☆学ぶの大好き！☆じぶん大好き！>



6年間の集大成、始めよう最後の授業！

卒業式を来週にひかえ、練習にも力が入ってきました。月曜日の1回目の練習に先立ち、6年生にはこんな話をしました。

皆さんはこれから「式」と名のつくたくさんの場面に立ち会います。入学式、卒業式、結婚式、そしてお葬式です。その中でも、自分の思いを伝えたり、自分たちで計画したり、相談したりしながら作り上げるのが卒業式です。6年間の集大成となる大切な卒業式を是非、自分たちで作りあげてください。在校生や先生方は全力でバックアップします。

～後略～



儀式的な行事の中で、最も大切な卒業式。例えコロナ禍においても必ず実施したいと誰もが思い、準備を進めてきました。ですから、ただの儀式として終わりにしたくはありません。6年生の思い、在校生の思い、教職員の思いが保護者の皆様、来賓の方々へ伝わる「式」としたいと考えています。

本日は予行として全体練習を行いました。さすがに6年生の凛とした態度には目を見張るものがありました。4・5年生も立派です。在校生を代表して参加するという自覚が現れています。残念ながら、1～3年生は今年も参加を見送りましたが、想いは必ず伝わるものと考えています。



在校生にとっても、その日は学年最後の日となります。心のこもった玉一らしい卒業式、最後の授業になりそうです。

伝統のバトンは誰の手に・・・！？

右の写真は、朝の登校時にスクールバスの運転手さんをお願いした一枚。（とりにいるのは、6年1組の今井涼太さん）バス内の清掃を行っていた忙しいところ声を掛けお願いした一枚です。

涼太さんは、毎朝スクールバスで川辺から学校に向かいます。バスが止まると勢よく飛び出して坂道を駆け上がる下学年の子どもたちをよそに、一番最後にバスを降りるのが涼太さん。一番最後に降りるのには訳があります。それは、「窓は開いてないか」「ゴミは落ちていないか」「シートベルトはもとの場所に戻っているか」と、最終点検をしながら降りるからです。

「毎日欠かさずやってくれるんですよ。校長先生褒めてあげてください。」

と、運転手さんがわざわざ学校にいらっしゃって笑顔で教えてくださったのは2学期の終わり。本人だけでなく、機会を見て全校生にも紹介したいと思いつつ、いつの間にか時間が経ってしまいました。その間も毎日、涼太さんは点検を欠かしませんでした。実はこの行いは代々川辺バスに引き継がれているものです。涼太さんが卒業した後は一体誰が引き継いでくれるのか、ちょっと楽しみです。

運転手さんとのツーショット、二人ともいい顔してますね。



<お世話になった運転手さんと>